



20世紀末まで道東にのみ生息していたタンチョウも、今世紀初めには道北へ、さらに2010年代には道央へと分布を拡大してきました。道北で暮らした個体は冬に道東へ移動するのに対し、道央で繁殖している個体は周年同じ圏内に留まっていると考えられ、道央圏のツルとして定着してきています。しかし、タンチョウが繁殖できるような広い湿地は、当該の地域にほとんど存在していません。そのため、道央圏において安定した個体数を維持できるかは不透明です。

タンチョウが巣を造る湿地・湿原は多様な生物が生息していると考えられています。つまり、タンチョウという種を保全することで、その生息環境を守り、ひいては生物多様性を守ることに繋がります。そこで、本種を象徴とした地域の環境保全について、みなさんとともに考えます。

フォーラム

タンチョウを象徴とした 道央圏の環境保全を考える

2023

2/23 (木・祝)

13:30-16:00

参加費無料 ※要申込

定員60名 ※先着順

会場▶▶札幌エルプラザ2階環境プラザ環境研修室A-B 1・2

このフォーラムは2022年度（公財）北海道新聞野生生物基金の活動助成により実施するものです。

プログラム

主催▶一般社団法人 タンチョウ研究所

協力▶株式会社THE-O (ジォ)

- ▶▶▶開会挨拶
- ▶▶基調講演『長沼町タンチョウも住めるまちづくり～舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す～』
加藤 幸一氏 [舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会会長]
- ▶▶▶休憩
- ▶▶話題提供①『掃き溜めにツルは住めないのか?』
正富 宏之氏 [専修大学北海道短期大学名誉教授]
- ▶▶話題提供②『タンチョウにとっての遊水地の重要性』
深沢 博氏 [むかわ、ながめまタンチョウ見守り隊/元新聞記者]
- ▶▶話題提供③『身近な自然を守るために』
小山内 恵子氏 [ネイチャー研究会inむかわ会長]
- ▶▶▶休憩
- ▶▶パネルディスカッション『タンチョウを象徴とした道央圏における環境保全の可能性』
パネラー：講演者、話題提供者 進行：正富 欣之 [一般社団法人タンチョウ研究所所長]
- ▶▶▶閉会

申込フォーム



<https://forms.gle/f4F8hq87VodCNbNo6>

お問合せ
お申込み

エコ・ネットワーク

札幌市北区北9条西4丁目エルムビル8階

TEL：011-737-7841

E-mail：eco@hokkai.or.jp

